

学校だより

あいかわ なかはら



令和8年 1月 8日 (木)
愛川町立愛川中原中学校
愛川町角田210
Tel 046 (286) 2710
発行責任者 中村 慎輔

飛躍の午(うま)年

～毎日を「楽しむ」気持ちをもって～

校長 中村 慎輔

いよいよ新しい年、2026年(令和8年)がスタートしました。今年の干支は「午(うま)」です。馬は、いしえよりその姿から飛躍や活発なイメージを連想させます。また、「万事ウマくいく」というシャレ言葉もあるように、縁起の良い動物でもあります。

「馬が合う」(気が合う、相性が良い)という言葉もあるので、友達や先生方としっかりと心を通わせ、互いに助け合い、励まし合う温かい学校生活を送ることを願っています。

「一年の計は元旦にあり」と言います。この言葉を聞くと、「完璧な計画を立てなきゃ」と身がまえてしまう人もいるかもしれません。でも、ここで言う「計」とは、立派な計画のことだけではなく、「今年はどうなりたいな」という自分の心への約束のことだと思います。3学期は今の学年の締めくくりであり、次のステップへの準備期間です。この一年のゴールをどこに設定するのか、真っさらなノートの1ページ目に書き込むような気持ちで、自分の目標をイメージしてみてください。皆さんの挑戦を先生たちは応援しています。

「楽しい」という言葉と「楽しむ」という言葉があります。似ている言葉で、一見同じような意味かなと思いがちですが、実は全く違います。

「楽しい」は、基本的に誰かから、何かから、与えられるもので受動的で、自分の心がプラスに反応すれば、即「楽しい」となりますが、自分の心がマイナスに反応すれば、即「つまらない」となってしまいます。自ら進んで努力することはなく、いったん立ち止まって考えることもなく、事態の原因をいつも周りのせいにしてしまう。いわゆる「お客様感覚」です。これでは、自分は常に誰かから「してもらう」存在で、それが楽しいかどうかのジャッジを下すのが自分ということになります。これでは、自分の行動や考え方を省みることなく、「楽しい」という感情をプレゼントしてくれない環境や他人を責めるようになってしまいます。

一方、「楽しむ」は自分で決めるものです。与えられたものが自分にとって仮に不快だったとしても、それに対する反応を消していくことだってできます。解釈を変え、行動を工夫する。自分の意志や思考によって未来を決定していくことができ、「こうすれば楽しくなりそう」「これでだめなら、次はこうしたらいいんじゃない」「こんなやり方もいいかも」と、考え方は前向きで、生産的になっていきます。これだと、自分が置かれている今の環境について、周りの人や環境を責めることはなくなっていく、自分のアイデア次第、行動次第で人生が次々と開けていくこととなります。

では、毎日の生活を「楽しむ」ためには、どうすればよいでしょうか。「私はできる」と、自信を持って言葉にすることで、目標達成への意欲を高め、実際に達成できる可能性が高まります。

ふだんから、日常会話の中でポジティブな言葉を使うことで、より良い人生を送ることができますし、肯定的な言葉を繰り返すことで、自己肯定感を高め、目標達成を促すことができます。こんな言葉があります。

「行動すれば成功か大成功。」行動した時点で成長がうまれるから失敗を恐れず、色んなことに挑戦してみてください。うまくいかないこともあるかもしれませんが、そのチャレンジは必ずあなたを成長させてくれます。チャレンジしたことについてポジティブに考え、自分をほめて、次の挑戦につなげていきましょう。「楽しい」は人からもらうもの、「楽しむ」は自分で作るものです。



保育園・幼稚園との交流授業

3年生では、家庭科の授業で「目指せ！子どもが集まってくる大人」を目標として、『幼児の発達・生活』について学習をしてきました。11月には、学んできたことの実践の場として、保育園・幼稚園の子どもたちとのふれあい実習を行いました。

園児たちと愛川中原中の校庭に実ったどんぐり拾ったり、2学期をかけて考え、準備した遊びを子どもたちと一緒にしたりしました。幼児と初めて関わる生徒も多く、最初はぎこちない関わりでしたが、1時間という短い時間の中でも、学んできたことを活かそうとする生徒たちの姿勢で、最後には園児たちの笑顔をたくさん見られた実習となりました。

生徒たちの振り返りを読んでみると、机の上の学びだけでは得られなかった気づきや、課題も見つけることができていました。この実習を通して学び取ったことを、これからの生活に活かしてもらいたいと思います。ご協力いただきました地域の皆様に感謝申し上げます。 家庭科担当



福祉体験授業～あすチャレスクール～

1年生は福祉体験学習を行い、パラリンピック出場者の加藤正さんを講師としてお迎えし、パラスポーツ体験型出前授業「あすチャレ！スクール」（主催：日本財団パラスポーツサポートセンター）を受講しました。生徒たちは車いすリレーや車いすバスケットボールに挑戦し、障がいのある人の立場や工夫の大切さを体験的に学びました。

加藤さんの講話では、共生社会の実現に向けて「社会には『障がいのある人』と『障がいになる可能性のある人』の二種類の人しかいない」という言葉のもと、障がいの有無は関係なく共生に向けてはコミュニケーションをとることが大切であるという視点が示されました。また、「できるか・できないかではなく、やるか・やらないかが大切である」と、挑戦することの意義について力強く語られました。

この体験を通して、生徒は自分自身の考え方を見直す機会となり、今後さまざまなことに前向きに挑戦していく勇気を得ることができました。 1 学年職員



月の掲示物 学習室作成

※愛川中原中学校のホームページの『愛川中原中学校 BLOG』を、随時更新しています。
ぜひ、ご一読ください。ブログは、右の二次元コードから入ることができます。二次元コード⇒

